かの日の歌【一】

漢那浪笛

青空文庫

南の国の黄昏(たそが)れ、
空は紅き笑ひを残して静かなり。
想思樹の葉のねむたげにうなだれ、
かすかなるうめきをやする。

ああ淋しみ、心をなす、植民地の黄昏(たそがれ)！
椰子の並木を縫ひて、
灯火(ともしび)は紅き花と見まがう。
その時我が耳に訪づれし悲歌の哀さよ。

◉

小暗き森の奥に、
時々もれくる鬱憂(うつゆう)の月影(つきかげ)。
木の葉は眠りより醒めて、
あやしき夜色(やしょく)に顫(ふる)へ出す。

忽ち響く恐ろしき獣の声！
よろづのものは皆醒めはてぬ。
声かれて歯白ろき、獣と思へば、
吾はたゞ恐怖の為めに伏して在るのみ！

◉

白き墓たちならぶ国！
まへには荒磯（ありそ）の潮騒（しおさい）、……
絶えず訪づれ、
うしろには歓楽の歌きこえて、
また墓石を濡す、
哭泣の哀れも湧く。
こゝにして、悲しめる者相集（あひつど）ひ、
匂ひよき酒を椰子の実に盛り、
互（くち）に口をすぼめて飲む時の

うれしさよ！
死は遂に吾れを慰め、……
人生の極(きは)みをのぞき見る。

◉

小鳥は、秋の空にさ迷ふ、
吾れは、一つの悲哀をとらへ、
小さき胸に隈(くま)なく乱る。
迷ひ、悲しみ、何の益ある、
小鳥よ来れ！手に手をとりて、
花咲き笑ふ南へさらむ。

青空文庫情報

底本：「沖縄文学全集　第1巻　詩※［#ローマ数字1、1-13-21］」　国書刊行会
　　1991（平成3）年6月6日第1刷
初出：「琉球新報」
　　1911（明治44）年10月30日
※初出時の署名は「浪笛生」です。
入力：坂本真一
校正：良本典代
2016年12月9日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

かの日の歌【一】

漢那浪笛

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/